

張連偉コース(メンバー専用コース)

中国ではゴルフは比較的新しいスポーツであり、中国国内のほとんどのコースはモダンな造りになっていますが、このコースは昔ながらのデザインを踏襲しています。

このコースは中国で最初の18ホール、パー3ゴルフコースです。

張連偉コース設計者： 張連偉

スコアカード

ホール	1	2	3	4	5	6	7	8	9	OUT
青	110	87	92	113	138	131	128	121	195	1115
白	93	75	80	94	132	118	118	109	187	1006
赤	82	68	71	82	116	96	108	95	150	868
パー	3	3	3	3	3	3	3	3	3	27

ホール	10	11	12	13	14	15	16	17	18	IN	通算
青	162	93	192	155	161	128	117	118	152	1278	2393
白	139	85	166	136	134	115	98	105	135	1113	2119
赤	118	83	142	118	115	98	85	92	112	963	1831
パー	3	3	3	3	3	3	3	3	3	27	54

コースレイアウト

● 1番ホール - 110ヤード (パー3) “スクエア・エッジ”

シカゴ・ゴルフ・クラブのようなクラシックなゴルフコースを連想させる、このホールは角のあるバンカーとグリーンエッジが特徴。グリーンは4つの急勾配の草で覆われたバンカーで囲われており、ティーからグリーンに載せられないゴルファーにとっては、挑戦的なチッピング・エリアとなる、フェアウェイより高い場所に位置する。パッティング・サーフェスは四方向へ落ちるため、グリーンの内でも外でも、優れたコントロールとタッチが要求される。

● 2番ホール - 87ヤード (パー3) “アップサイド・ダウン”

バインハーストNo.2のグリーン・コンプレックスから着想を得たこのホールはいろいろな方向へボールが落ちる、ドーム型のグリーンが特徴的。グリーンはフェアウェイから約2メートル上に位置する。ティーからパッティング・サーフェスに届かないプレーヤーはクリエイティブなショートゲームを要求される。

● 3番ホール - 92ヤード (パー3) “ホースシュー”

蹄鉄型のグリーンはハザードと、広くて浅いグリーン中央手前にある、沈み込んだグリーン・サーフェスが特徴的。グリーン正面と中央はパッティング・サーフェスよりも1メートル以上低くなっており、グリーンの適切な場所にティーショットを打たなければ、ここを通るか、周りを廻らなければならない。

● 4番ホール - 113ヤード (パー3) “ザ・モウト”

黄金時代のゴルフコース設計者、C. B. MacDonald や Seth Raynor らによるグリーン・コンプレックスと同タイプのホールは、砂の堀に囲まれた高い位置のグリーンが特徴的。ホールのトレードマークは急勾配の草で覆われたバンカーである。

● 5番ホール - 138ヤード (パー3) “ザ・ピアリッツ”

フランス、ピアリッツの有名なグリーンにインスパイアされたホール。このホールは1.5メートルの深さの谷間に二分されるグリーンが特徴的。ティーショットには距離と正確さが重要となる。さもないと、ピンに近づけるには、2打目は器用に谷間を通らなくてはならなくなる。



張連偉コース(メンバー専用コース)

コースレイアウト

● 6番ホール - 131ヤード (パー3) “パンチボール”

イギリス諸島のゴルフコースで見られるクラシックなグリーンを連想させる、このホールは土手に囲まれている。へこんだグリーンと周辺は正確なティーショットを要求される。

● 7番ホール - 128ヤード (パー3) “ウォーターフォール”

グリーンは1メートルごとに、次から次へと流れ落ちる、三層の連続した滝が特徴である。ティーショットの場所が最重要である。プレーヤーは適切な層に打ち、且つ、グリーンの右手を阻む不気味なウォーターハザードを避ける必要がある。

● 8番ホール - 121ヤード (パー3) “ポステージ・スタンプ”

スコットランドのロイヤル・トルーンの有名なホールにインスパイアされたこのホールは、驚くほど小さなグリーンがあり、深い芝の壁に覆われたバンカーに囲まれている。ティーからは、グリーンの左右を隠す土手とバンカーに囲まれ、ゴルフファーは卒のないショットを強いられる。

● 9番ホール - 195ヤード (パー3) “ザ・レダン”

おそらく世界中で最も複製されているこのショートホールは簡単には近づけないグリーンが特徴である。グリーンはゴルフファーより右から左への方向に位置し、グリーンは右側は深いバンカー、左側は2つの急勾配の草で覆われたバンカーに囲まれている。ティーからグリーンに近づくためには、右端での正確なショットが必要とされる。このレダンホールは後方への大きな傾斜が特徴である。

● 10番ホール - 162ヤード (パー5) “ペニンシュラ”

世界各地に似たタイプがあるこのホールのトレードマークは三方を池に囲まれたグリーン・コンプレックスにある。このグリーンはグリーン・コンプレックスの角度に合った、左から右へのショットが望ましい。

● 11番ホール - 93ヤード (パー3) “ザ・エース”

オリジナルデザインのこのホールはこのコースでも最もエキサイティングなホールと言える。グリーンを5つに分ける尾根を形成する曲線が特徴。グリーンは正確な場所への完璧なショットはホール・イン・ワンのチャンスをつくるが、その特徴的な輪郭が間違った尾根へボールを運ぶこともある。

● 12番ホール - 192ヤード (パー3) “フォール・アウェイ”

スパイグラス・ヒルの4番ホールのようなグリーンに着想を得た、このグリーンは込み入った土手の間に位置する。ティーからは、グリーンはほとんどの部分は、周りを囲んだ土手に隠れている。

当コースでのチェックイン

深圳ゴルフクラブハウス

遅くともティータイムの30分前までに3階のフロントへチェックインしてください。

遅れた場合は、ご予約は自動的に取り消されますので、ご注意ください。

● 13番ホール - 155ヤード (パー3) “アワー・グラス(砂時計)”

ペブルビーチの有名な17番ホールを真似たこのホールは、グリーンは真ん中の幅がとても狭く、砂時計の形となっており、前と後ろの2箇所のみピンが立てられる。グリーンは左手に大きなバンカーが1つ、右手に深い小さなバンカーが3つ、後ろにとっても深いバンカーが1つある。パッティング・サーフェスに起伏があり、グリーン中央が一番高くなっているため、グリーンへのティーショットは正確な距離を掴む必要がある。ボールは真ん中まで距離が短ければ手前へ、長ければ後ろへ落ちることになる。

● 14番ホール - 161ヤード (パー3) “ザ・ビーチ”

T P C ソーグラスの14番ホールを連想させるこのホールは、長い、急勾配の草に覆われた平底のサンドバンカーが特徴である。マウンド・コンプレックスと深いバンカーが左からグリーンへの行く手を阻む。

● 15番ホール - 128ヤード (パー3) “ザ・デル”

アイルランドのラヒンチに着想を得たこのホールは、ティーからグリーン右端以外の大部分を隠す、グリーン手前の大きな土手が特徴。ブラインドホールでプレーするには、グリーン中央を示す、土手の中央に位置する石に狙いを定めなければいけない。

● 16番ホール - 117ヤード (パー3) “ザ・アイランド”

世界で一番有名なパー3ホールと同タイプのこのアイランド・グリーンはティーに立ったゴルフファーを恐怖に陥れる。適度なサイズのグリーンは、ティーからは一見小さく見え、池に囲まれている。完璧なショットを打たなければ、必ず池に落ちてしまう。

● 17番ホール - 118ヤード (パー3) “バンカー・イン・グリーン”

リビエラ・カントリー・クラブの6番ホールを模したこのホールの特徴は、グリーン中央にあるバンカーといえる。ゴルフファーはティーショットの距離を正確に判断しなければならず、さもなければ、ピンに近づくためにはバンカーからのパットやチップオーバーを余儀なくされる。

● 18番ホール - 152ヤード (パー3) “ザ・ロード・ホール”

セント・アンドリュースのパー4、17番ホールが悪名高い第2打を思い起こさせるこのホールは、連続したハザードが特徴。グリーン手前にはソッドウォール・バンカーがあり、さらに、グリーンは最高のバッターでさえ難しいうねりがある。